

専門家がプロセス見直しから導入まで伴走、バックオフィス業務をデジタルシフトする「ドキュメント DX」を提供開始

スキャナー世界シェア No.1^(注1) / OCR ソフト国内シェア No.1^(注2)の PFU が、文書起点の DX で業務効率化と AI 活用を促進

株式会社 PFU（社長執行役員：平原 英治、以下 PFU）は、企業内に残る紙・PDF・画像などの文書情報を、業務で使えるデータに変換し、バックオフィス業務を効率化する新しい DX 支援サービス体系「ドキュメント DX」を、2026 年 4 月 21 日より提供開始します。

労働人口の減少や人手不足が進む中、企業のバックオフィス業務には、これまで以上の効率化が求められています。しかし多くの現場は今もなお、紙・FAX が数多く残り、手入力や目視確認といった非効率な作業が続いています。また、多くの企業において生成 AI の導入は進む一方、用途は議事録作成や情報整理など限定的な活用にとどまっています。その背景には、紙・FAX に加え PDF や画像も含めた文書情報が業務やシステムで扱いやすいデータになっていないこと、および、レガシーな既存システムの改修ハードルが高いことが挙げられます。

「ドキュメント DX」は、それらの課題を解消すべく、PFU の専門 SE が、お客様の業務と文書の棚卸しから、業務プロセスの再設計・システム導入・定着までを伴走型で支援するサービス体系です。同日発表の新 AI-OCR「PaperStream AI」により文書情報の高精度なデータ構造化が可能になったことで、生成 AI 活用も見据えたバックオフィス業務の変革を支援します。

PFU は、世界シェア No.1 のイメージスキャナーをはじめ、200 社以上の業務デジタル化を手掛けてきた導入実績をもとに、企業の DX を力強く実現していきます。

※本サービスは、PFU が提供する DX 支援サービス「プロセス Re:Design（プロセスリデザ）」の枠組みにおける“デジタルライズ”領域として、文書業務に特化して提供します。

背景：ドキュメント業務効率化の壁

企業のバックオフィス業務では、これまで以上に効率化が求められています。しかし現場では、今もなお、紙・FAX が数多く残り、手入力や目視確認といった非効率な作業が続いています。

また、政府調査^(注3)によると、企業の 55.2% が生成 AI を利用する一方、用途はメール作成や議事録作成などの補助業務にとどまっています。その背景には、業務の起点となる文書情報の多くが、AI の扱いづらい紙・PDF・画像などの「非構造化データ」であるためと考えており、「非構造化データ」を「構造化データ」に変換し、既存の業務プロセスに組み込んで活用できる形にしていけることが、バックオフィス業務の効率化と AI 活用を進める鍵となっています。

さらに、「現行業務を大きく変えたくない」という現場のバイアスや下図のような「レガシーな既存システムとの連携の難しさ」もあり、単に IT ツールを導入しても「従来のムダや例外処理をそのままデジタル化しただけ」になり、十分な効果につながりません。

ドキュメント業務効率化の壁 ～システムの壁～

レガシーシステムの
残存状況^(注4)

61%

- **サイロ化したレガシーシステム**
各業務に最適化されたシステムは存在するが、紙/ドキュメントを扱う機能やAI機能はなくシステム全体で見ると非効率
- **システム改修の高いハードル**
業務改善を図りたくても、基幹や業務システムへの影響範囲が大きくリスクも高いため、改修に踏み切れない
- **部門独自業務プロセスの壁**
部門独自の業務プロセスが残存していることで、パッケージ導入による「Fit to Standard」が進まず、業務改善が停滞

既存システムに手をいれることなく
基幹周辺からの改善が肝要

PFUの「ドキュメントDX」は、200社以上の導入実績に基づく知見をもとに、ツール選定の前に業務と文書の棚卸しから専門家に対応し、導入まで一貫して伴走します。ツール導入だけでは見えにくい課題を可視化し、レガシーな既存システムを大きく変えずに、成果につながる業務効率化とAI活用を実現します。

「ドキュメントDX」とは

「ドキュメントDX」は、企業内に残る紙・PDF・画像などの文書情報を、PaperStream AI などにより業務で使えるデータに変換し、業務プロセスに組み込むことで、バックオフィス業務の効率化を実現するDX支援サービス体系です。200社以上の業務デジタル化を手掛けてきた専門SEが「①業務棚卸」「②プロセス見直し」「③最適なソリューションの導入」の3つのステップを通じて伴走し、AI・既存システムとの連携までを一体で支援します。単に紙の束を電子化するだけでなく、現場の業務でデータ活用できるまでを支援し、レガシーな既存のシステムとも連携して、お客様のバックオフィス業務を効率化することを目的としています。

ドキュメントDX

専門SEが導入まで伴走

文書情報
(非構造化データ)

紙
PDF
画像

①業務棚卸

業務課題を抽出

②プロセス見直し

業務プロセスを再設計

③最適なソリューションの導入

デジタル化/データ構造化 → データ連携 → データ管理/活用 → AI連携

クラウド
PaperStream AI
オンプレミス
DynaEye

データ連携
RPA

データ管理/活用
基幹システム
業務システム
DocuWare

AI連携
AI/デジタルツール群

AI活用を促進し、効果を最大化させるソリューションの選定・導入

200社以上の業務デジタル化を手掛けてきたPFUのノウハウ

■PFUの「ドキュメントDX」が選ばれる理由

・文書と業務の棚卸しから専門家が伴走

ツール選定の前に、対象業務や文書を整理し、どの業務から着手すべきかを明確化。業務改善の設計から導入まで一貫して支援します。

・200社以上の文書業務デジタル化の実績


PFUは、世界シェアNo.1のイメージスキャナーをはじめ、200社以上の業務デジタル化を支援してきました。その中で培った知見をもとに、改善効果の高い業務を見極めます。

・既存システムを全く変えずに成果を実現^(注5)

既存の業務システムや基幹システムと連携しながら、文書を起点に業務効率化を進めるため、システム全体を変更することなく導入できます。


■提供サービス

ドキュメントDX



ドキュメント業務棚卸サービス

業務+ドキュメントの整理・課題抽出



ドキュメント業務デジタル化サービス

最適なソリューションの提案と提供

「ドキュメント業務棚卸サービス」

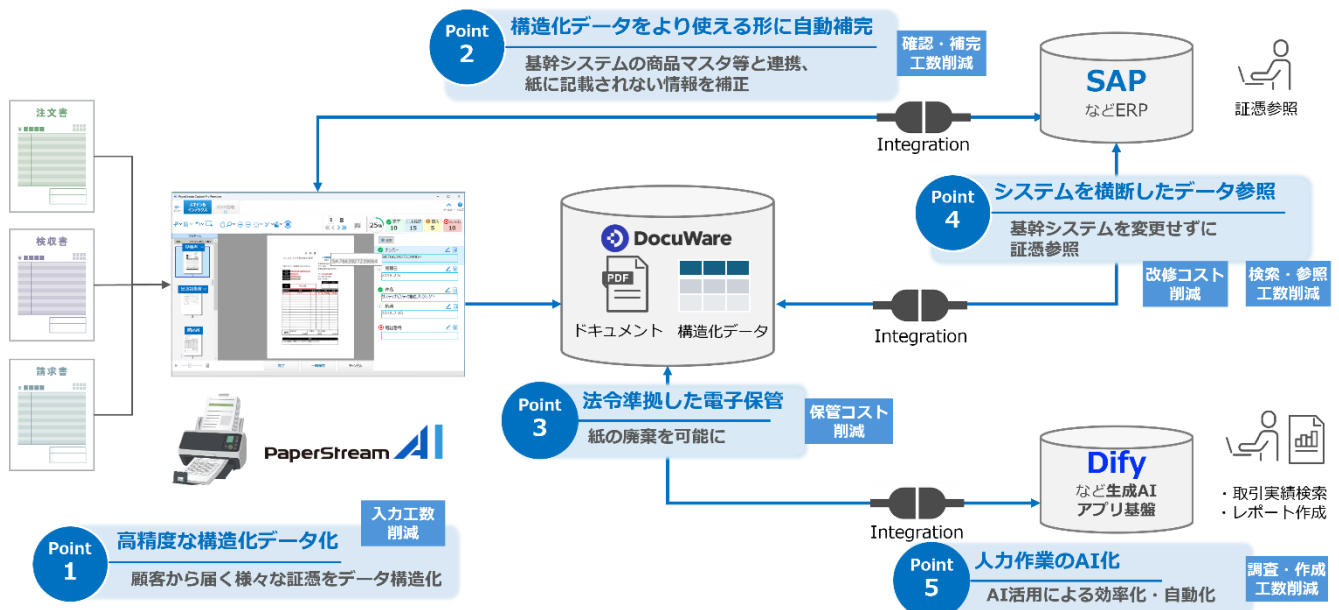
短期間（約1～1.5か月）で、お客様の業務と文書の棚卸しから、課題整理、改善施策の提案を行います。

「ドキュメント業務デジタル化サービス」

スキャナー、AI-OCR、RPA、ファイリングシステム（例：DocuWare）、既存システムとの連携などを組み合わせ、文書情報を業務で使える形に変換します。ドキュメント業務棚卸サービスで実施した改善施策の提案内容およびお客様のご要件に応じて個別に提案します。

■「ドキュメントDX」 with 「PaperStream AI」 がもたらす価値

前述のサービスの中核となる新AI-OCR『PaperStream AI』を起点に、紙文書のデータ化から既存システム連携、AI活用までを一気通貫で実現する価値の全体像です。



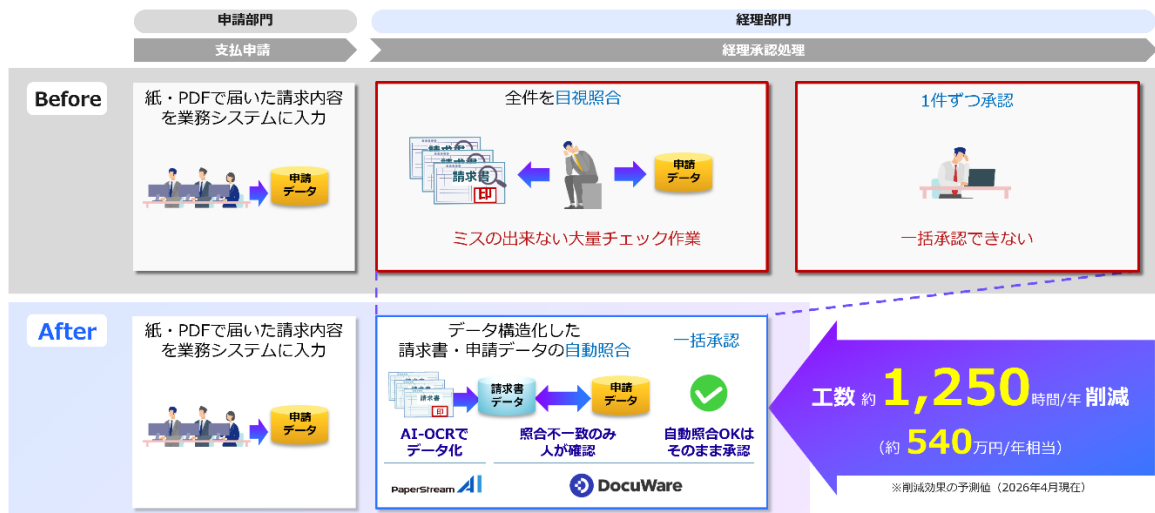
「ドキュメント DX」社内実践（PoC 実施中）： 経理・購買業務

PFU では、本サービスの提供開始に先立ち、バックオフィス領域における業務デジタル化の有効性を検証するため、経理部門および購買部門の2業務において、「ドキュメント DX」の社内 PoC（概念実証）を実施しています。

PoC の背景には、バックオフィス業務を取り巻く環境変化があります。深刻な人手不足の中、経理部門および購買部門では、入力・確認・承認業務の負荷が、長く課題となっていました。そこで、こうした課題への対応として、紙や PDF で受領した取引関連書類を、業務で活用可能なデータへ変換し、基幹システム連携することで、従来人手に依存していた入力・確認・承認プロセスの効率化とその効果見込みを検証しました。

■経理部門（請求書の支払処理業務）

経理部門における請求書の受領・照合・承認処理（年間約15,000件）の見直し



■購買部門（納品書の受入・検収業務）

購買部門における納品書の受入・検収・保管業務（月間約770件想定）の見直し



※ 2026年4月現在の削減効果予測値です。

PRESS RELEASE

※ 本 PoC は数百件程度の実際の書類データを用いた初期評価段階です。本 PoC に記載の削減効果は、一定の前提条件に基づく予測値であり、実測値ではありません。実際に導入した場合の効果は、お客様の利用環境、運用条件等により異なるため、当該予測値と同様の効果を保証するものではありません。

バックオフィス業務には、これまで「人が手作業で行うのが当たり前」と見過ごされてきたプロセスが数多く存在し、まだまだ効率化できる余地があります。PFU は自らの強みを活かし、手作業に依存するプロセスを徹底して効率化していきます。今回の PoC は初期評価段階ですが、有効性を証明するものです。今後はプロセス見直しや AI 活用により、例外対応や判断業務へ人材をシフトできる運用を実現し、他のバックオフィス業務へ展開していきます。

価格

- ・ドキュメント業務削除サービス：100 万円（税抜） / 1 業務

※必須ではありません。

- ・ドキュメント業務デジタル化サービス

【価格例】（税抜）

・初期費用：60 万円～

・ランニング費用（2 年目以降）：34 万円～

※必要な製品・サービスを組み合わせ、個別見積となります。

販売開始日

2026 年 4 月 21 日

関連サービス

■ 「PaperStream AI」 「PaperStream スタートアップサービス」 について

PaperStream の詳細は、以下のプレスリリースをご覧ください。

2026 年 4 月 21 日 プレスリリース

[「定義不要であらゆる帳票を即データ化 OCR ソフト国内シェア No.1 の PFU、新 AI-OCR 「PaperStream AI」 を販売開始」](#)

■ 「プロセス Re:Design（プロセスリデザ）」 について

業務改善を実現に導く DX 支援サービスです。業務の現状を可視化し、体系的なフレームワークに沿って最適化・デジタル化を進めることで、スムーズにプロセスの再設計（=プロセス Re:Design）を実現するサービスです。

詳しくは、「プロセス Re:Design」紹介サイト ([リンク](#)) をご覧ください。

商標について

- ・ドキュメント DX、あんしんエビデンス管理は株式会社 PFU の登録商標です。
- ・プロセス Re:Design、プロセスリデザは、日本国内における株式会社 PFU の商標です。
- ・PaperStream、DynaEye は、株式会社 PFU の日本における登録商標または商標です。
- ・Dify は、LangGenius, Inc. の商標または登録商標です。

- ・ DocuWare および DocuWare ロゴは、DocuWare GmbH の商標です。
- ・ SAP は、ドイツおよびその他の国々における SAP SE の商標または登録商標です。
- ・ その他記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

注釈

注1：ドキュメントスキャナーを対象とする。日本・北米はKEYPOINT INTELLIGENCE 社 (InfoTrends)により集計（2024年実績）。ドキュメントスキャナー集計より Mobile/Micro を除く 6 セグメントの合計マーケットシェア（主に 8ppm 以上のドキュメントスキャナー全体）。欧州は infoSource 社（2024年実績）の集計に基づく、西欧地区（トルコとギリシャを含む）におけるシェア。

注2：「OCR パッケージソフトウェア 国内シェア No.1」は、「DynaEye シリーズ」を対象とする、富士キメラ総研「ソフトウェア新市場 2025年版」<2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）>（提供形態：パッケージソフトウェア）の日本国内における集計に基づく。

注3：総務省「令和7年版 情報通信白書」（2025年）

注4：経済産業省「DXの現在地とレガシーシステム脱却に向けて」（2025年）

注5：原則、既存システムの改修は不要ですが、お客様の要件や連携システムにより改修が必要となる場合があります。連携には検証が必要です。

関連リンク

「ドキュメント DX」紹介サイト	https://www.pfu.ricoh.com/rm/documentdx/
ドキュメント業務棚卸サービス	https://www.pfu.ricoh.com/rm/doc_inventory/
プロセス Re:Design 紹介サイト	https://www.pfu.ricoh.com/dx/prd/
RICOH fi Series	https://www.pfu.ricoh.com/fi/
PaperStream AI	https://www.pfu.ricoh.com/fi/software/capture-pro/
DynaEye 11	https://www.pfu.ricoh.com/dynaeye/product/dynaeye11/
DocuWare	https://www.pfu.ricoh.com/docuware/
あんしんエビデンス管理	https://www.pfu.ricoh.com/rm/anshinrm/

お客様お問い合わせ先

株式会社 PFU
ドキュメントイメージング事業本部
パートナービジネス統括部 ビジネスプロダクト販売推進部
E-mail : doc-service@ml.ricoh.com

報道関係者お問い合わせ先

株式会社 PFU
コミュニケーション戦略センター 広報部
E-mail : pfu-press@ml.ricoh.com

PFU について

株式会社 PFU は 1960 年に創業し、コンピューター開発で培った技術を基に、イメージスキャナーに代表されるドキュメントイメージング関連商品・サービス、並びにお客様の安心安全に貢献する IT インフラの構築・運用支援サービスを提供しています。PFU はお客様の業務プロセス改革・DX に貢献するエッジデバイスを進化させ、それを支えるサービスを提供し、持続可能な世界の発展に貢献してまいります。

詳細は Web サイト (<https://www.pfu.ricoh.com/>) をご覧ください。

リコーグループについて

リコーグループは、お客様の DX を支援し、そのビジネスを成功に導くデジタルサービス、印刷および画像ソリューションなどを世界約 200 の国と地域で提供しています（2025 年 3 月期グループ連結売上高 2 兆 5,278 億円）。

“はたらく”に歓びを創業以来 85 年以上にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、ワークプレイスの変革を通じて、人ならではの創造力の発揮を支え、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。

<https://jp.ricoh.com/>

※プレスリリースに掲載されている情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。